

## 2 指導の重点

## (1) 各教科、「特別の教科 道徳」、総合的な学習の時間、特別活動

## ア 各教科

- ① 授業のねらいを明確にして、分かる授業を展開するとともに、メタ認知向上の一途としての振り返りの時間を確保する。
- ② 学び合う姿勢を大切に、問題解決的な学習や言語活動を積極的に取り入れ、思考力・判断力・表現力を高める指導方法の工夫・改善を図った授業を推進する。
- ③ 生徒による協働の対話の時間を単元ごとに確保し、多様な意見や考えが出せる課題を設定し、ファシリテーションの手法を用いて、ICT機器を使用しながら、対話活動の活性化や促進化を試みる。
- ④ 数学・英語では指導方法工夫改善加配教員を活用した習熟度別・少人数授業を行い、さらに英語では英語指導助手の活用を踏まえ、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るとともに、コミュニケーション能力の向上及び生徒の実態に応じた指導の充実を目指す。
- ⑤ 保健体育では、救命救急講習会やダンスの授業を関係機関や大学の協力を得ながら実施する。また、体力テストの結果を分析し、課題を授業に反映する。
- ⑥ 家庭科では栄養士とのチームティーチングや講師による食育の授業を展開していく。
- ⑦ 学習習慣を身に付けさせるために、国語科では漢字コンクール、数学科は計算コンクール、英語科はスペリングコンテストを年間に数回実施し、基礎的な学力の定着を図る。
- ⑧ 運動会や合唱コンクール、作品展などの学校行事と教科の関連を図った指導計画を作成し、生徒の関心・意欲の向上を図りながら、自己表現の力を深化・発展させる。

## イ 「特別の教科 道徳」

- ① 『考え、議論する』道徳の授業を通して、多面的・多角的に考える力を身に付け、人間としての生き方についての考えを深めさせる。
- ② 道徳教育推進教師を中心として、教育活動全体と道徳の時間との関連付けを図りながら、「命の教育」を推進し、自他の生命を大切に、他を思いやる心を育てる。

## ウ 総合的な学習の時間

生徒に身近で興味あるテーマを設定することにより、学習や課題に対して自ら進んで探求したり協議することを通して、課題を解決していく能力を育てる。また、レポート等の紙面発表、口頭発表、プレゼンテーションソフトを用いた発表と、発達段階に応じた指導計画を作成することにより、表現力、発表力を育成する。さらに、インターネットや学校図書館を活用することにより、情報収集・活用能力の伸長を図る。またSDG s 学習について取り組む。

## エ 特別活動

- ① 運動会や合唱コンクール等の学校行事や生徒会活動を通して、生徒一人一人の活躍する場を大切に、成就感や充実感を味わわせ、集団への所属感を深めさせる。
- ② 学校保健委員会の機能を活用し、生徒の活動や外部講師の講演を通して、健康教育を学校及び地域に広げる。
- ③ 生徒会主催の落ち葉清掃、空堀川清掃活動などのボランティア活動の充実を目指す。

## (2) 特色ある教育活動

## ア ファシリテーションの手法を用いた対話的な授業の継続

対話的な活動を活性化させるために、また深い学びに直結できるように、ファシリテーションを用いた対話的な授業を今年度も継続する。特に、生徒をファシリテーターになることを意識させ、そのための手法を習得させていく。

## イ ICT機器の活用

ファシリテーション時に使用していたホワイトボードの代わりに、タブレットを使用して、さらに効率よく対話の授業を進めていく。また、ホワイトボードは記録に残らなかったが、ICT機器により、記録を残し、正確に評価する。

## ウ 第一学年から始めるSDG s の学習

2030年を決着点とするSDG s に向けて、一つひとつの目標とゴールに向けての解決策を協働で考えさせる。また年に数回、ThinkingからDoing プログラムに繋げる取組も行う。さらに、世界的な取組を自校の活動につなげることができた生徒会の昨年度の取組を踏まえて、今年度は、生徒会発信で、生徒一人一人の思考及び行動につなげていけるようにする。

## エ キャリア教育の推進

職業調べ、社会人講話、上級学校の先生による体験授業などを通して、基礎的・汎用的能力の育成に努める。

## オ 教育相談を基点とした指導体制の維持

毎週一回実施する管理職、スクールカウンセラー、特別支援教室専門員、特別支援教育コーディネーター、各学年主任、養護教諭で組織する教育相談会の内容を充実させ、情報共有を図りながら、具体的な支援の在り方を確認する。

## カ 学校図書館の利用者拡大と情報センターとしての活性化

各教科において図書館利用を活性化し、インターネットとの併用で情報活用能力を育てる。図書支援員の活用を図りながら、図書委員会の主催で、推薦図書紹介、読書推進のための日本一周読書マップ運動、年に一度のビブリオバトルの3つの自主的な活動を展開し、情操の育成と言語に関する能力の向上を図る。さらに、3回の読書月間を設け、読書時間の増大と図書館利用の拡大をはかる。

## キ 四中未来塾と四中数学ルームの充実

学校支援本部が主催する四中未来塾では、検定試験対策講座を実施する。開室は毎週水曜日放課後、地域コーディネーターの紹介の講師を中心に運営する。四中数学ルームは、学生の教育インターンシップ生及び教職大学院生を中心に講師を編成し、基礎的な数学の問題を指導する。開室は毎週木曜日放課後に設定する。